

既存の加工機にオプション部品をマウント

プレカットによるP3プラスへの対応

日木産業(株)&宮川工機(株)

(株)タツミの接合金物テックワンP3を拡張する形で開発されたテックワンP3プラスは基本となる4種の金物を組み合わせることで耐力壁やトラス、ラーメン・フレームなど様々な架構を実現することができる。宮川工機(株)では今年8月にテックワンP3プラスに対応した部材プレカットを既存の加工機で行うことができるオプション部品を新たに開発。今回はこの追加機能を国内で初めて実用化させた日木産業(株)を取材した。



P3プラスを用いたトラスにより9.1mのスパンを実現

「テックワンP3プラス」は(株)タツミの高耐力接合金物である「テックワンP3」を拡張する形で開発されたもの。軸力伝達金物の「A1コネクタ」、高耐力せん断伝達金物の「S1コネクタ」、コンパクトせん断伝達金物の「S2コネクタ」、高耐力柱脚金物の「BS1コネクタ」の4つで構成されており、従来のP3金物と組み合わせることで10倍相当の耐力壁や小屋トラス、張弦トラス、方杖など様々な架構が実現できる。

P3プラスは部材の接合部を特殊な形状にしなければならないため、これまでは手刻みによる加工が一般的で、架構における汎用性の高さとは反対に、材の加工には手間と時間がかかるため、対応可能な加工機の

登場が待たれていた。こうしたニーズを受け、宮川工機(株) (愛知県豊橋市、宮川嘉隆社長) は今年8月に、P3プラスの加工に対応したオプション部品を開発。既存の宮川工機製加工機にマウントすることで、プレカットマシンによるP3プラスに対応した加工の自動化が可能になった。

今回、P3プラスに対応させるオプション部品を導入したのは、建材事業・プレカット及び木材販売事業を運営する(株)日立ライフグループの日木産業(株) (茨城県日立市、大貫寿雄社長) 西原プレカット工場。同工場は3年前に宮川工機(株)製の横架材や羽柄材の全自動加工機のほか、生産管理システム「BRAIN8」を導入し生産設備を一新。従来の2ラインを1ラインに